鴨川の納涼床

京都おすすめの涼しいトコ ＆ ちょこっと怖い京都の楽しみ方

まだまだ暑い日が続きます。京都も盆地ですので例外ではありません。コロナ後には夏も大勢の外国人観光客でにぎわっていましたが、昨年あたりから来場者はマイナスになったようです。とうとう京都の暑さがバレてしまったのかもしれません。今回はそんな夏でもお勧めの涼しいスポットに加え、背筋が少しゾクッとする京都のお話しも、少し深掘りしてご紹介します。

京都の夏のおすすめ川床

川沿いや川の水面にお座敷を作り、風や川のせせらぎに涼みながら食事をいただく、京の風物詩。鴨川では納涼床（かわゆか）と言い、比較的高い位置にお座敷が組まれ開放的です。

一方、貴船や高雄では川床（かわどこ）と言い、川面のすぐ上にお座敷が組まれているのが特徴です。

京都の奥座敷だけあって、初夏にはまだ寒く感じる日もあるぐらいです。鷹峯の川床は、街中にほど近い場所にありながら、気温は街中より2℃ほど低く、緑の包まれ感と川面の距離感のバランスが良く、おすすめできます。次にお勧めは、京都の中でも歴史のある寺社です。源義経が武道の修行をした鞍馬寺は、天狗の里とも言われる霊山で神秘的なパワースポットです。また上賀茂神社や下鴨神社は縄文時代から祭祀が行われたと言われており、広大な敷地に原生林があります。いずれも凛とした独特の空気感とマイナスイオンがいっぱいで、街中とは違う温度感です。

貴船の川床

京都水族館（クラゲワンダー）

また、空調の効いた施設系も当然おすすめです。オオサンショウウオなど京都ならではの生物が観察できる大型の内陸型水族館の京都水族館、珍しい蒸気機関車をはじめ、多くの歴史的な列車が展示されている京都鉄道博物館は定番です。平安神宮のある岡崎エリアには、京都市京セラ美術館をはじめ、京都国立近代美術館や京都伝統産業ミュージアムなど一日では回りきれないくらいの施設があります。

また京都駅付近には、新感覚の没入型アートミュージアムであるチームラボのバイオヴォルテックス京都やDRUM TAO THEATER KYOTOも開業しており、観光客が落ち着く夏の京都で、涼しくて楽しい観光も狙い目です。

少しゾクッとするお話し

京都は怨霊が跋扈する街と言ったら驚かれますか？そもそも平安京は、早良親王の祟りを恐れた桓武天皇が長岡京からたった10年で遷都した都で、「四神相応」という風水思想に基づき建設されました。

北の船岡山（玄武）、東の鴨川（青龍）、西の山陰道（白虎）、南の巨椋池（朱雀）に守られた地形が最大の特徴です。陰陽道では、鬼門の北東に比叡山延暦寺、天門の北西を愛宕神社で封じるなど、徹底して災いを除く都市づくりを行いました。更に延暦寺に至る鬼門方向には、京都御所の猿が辻、幸神社、赤山禅院にそれぞれ猿神を設置しました。

猿は十二支方位で鬼門の対角にあり、魔除けや厄除けの象徴です。鬼門は丑寅（うしとら）の方向なので、鬼の象徴は牛の角と虎のパンツ、桃太郎では裏鬼門の未申（ひつじさる）の申（猿）、酉（雉）、戌（犬）がお供になったわけですね。因みに羊は角があるのでダメだったとか。それでも起こる天変地異に対し時の朝廷は、早良親王はじめ、崇徳上皇や菅原道真ら怨霊の仕業と恐れ、その御霊を鎮めるため、3人を神として崇め奉りました。そのため建立されたのが、御霊神社、白峯神宮、北野天満宮です。これが御霊（みたま）信仰の始まりですね。

北野天満宮

最後に、京の三大葬送地のお話しをしましょう。平安時代、身分の高い人たちを除き、一般庶民では風葬（遺体を土に埋めず野ざらしにする慣習）が一般的でした。嵐山北西の化野（あだしの）、東山の清水寺や大谷本廟あたりの鳥辺野（とりべの）、そして船岡山西側の蓮台野（れんだいの）が知られています。鳥辺野周辺には、あの世とこの世の境目と言われる六道の辻や、夜は閻魔様に仕えた役人小野篁が地獄へ通った井戸が、今も六道珍皇寺にあります。蓮台野に続く千本通りは、多くの卒塔婆あったので、その名称になったそうです。

少し涼しくなりましたか？これも平安時代の大都会である京都だからこその「都市問題」ですね。雅だけでない様々な歴史に思いを馳せる、また新たな京都が発見できることと思います。

猿が辻の猿神

幸神社の猿神

赤山禅院の猿神